

福祉環境委員会記録

令和5年5月18日（木）
10時00分～11時47分
全員協議会室

【委員】小川委員長、村木副委員長、
村武委員、柳楽委員、岡本委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【執行部】

〔健康福祉部〕猪木迫健康福祉部長、河内地域福祉課長、棕木健康医療対策課長、
河上健康医療対策課地域医療担当課長(新型コロナウイルスワクチン対策室長)、
大賀健康医療対策課健康増進担当課長、松山子ども・子育て支援課長、
龍河子ども・子育て支援課子育て世代包括支援担当課長、
坂根保険年金課長

〔市民生活部〕井上市民生活部長、小松環境課長、鈴木総合窓口課長、
市原税務課長、土谷資産税課長

〔上下水道部〕佐々木上下水道部長、右田水道管理課長、大上下水道課長

【事務局】松井次長、久保田書記

議題

1 執行部報告事項

- | | |
|--|--------------|
| (1) 高齢者人口等の推移について | 【健康医療対策課】 |
| (2) 新型コロナウイルス感染症関連の状況について | 【健康医療対策課】 |
| (3) 島根大学医学部医学科『地域枠』及び市内看護学校卒業生・入学生の状況等について | 【健康医療対策課】 |
| (4) 放課後児童クラブの入会状況について | 【子ども・子育て支援課】 |
| (5) 令和4年度病児・病後児保育室の利用実績について | 【子ども・子育て支援課】 |
| (6) 令和5年度幼児教育施設の変更点と未就学児童の状況について | 【子ども・子育て支援課】 |
| (7) 令和4年度子育て世代包括支援センター「すくすく」等の利用状況について | 【子ども・子育て支援課】 |
| (8) 令和5年度浜田市国民健康保険料率について | 【保険年金課】 |
| (9) 令和4年度ごみの排出量等について | 【環境課】 |
| (10) マイナンバーカード交付状況等について | 【総合窓口課】 |

- | | |
|----------------------------------|---------|
| (11) 令和5年度軽自動車税（種別割）の当初賦課状況等について | 【税務課】 |
| (12) 令和5年度固定資産税の当初賦課状況等について | 【資産税課】 |
| (13) 下水道事業の公営企業会計への更なる移行について | 【水道管理課】 |
| (14) 浜田処理区下水道整備事業について | 【下水道課】 |
| (15) 浜田処理区下水道マンホール蓋デザイン募集について | 【下水道課】 |
| (16) その他 | |
- (配布物)
- ・ 令和5年度子育て支援ガイド 【子ども・子育て支援課】
- 2 その他
- 3 【取組課題】 就労支援を含めた障がい者支援について（委員間で協議）

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○小川委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。出席委員は6名で定足数に達している。レジュメに沿って進めていく。

1 執行部報告事項

(1) 高齢者人口等の推移について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

浜田市が高齢者人口のピークを迎える時期はいつ頃と推定されているか。

○健康医療対策課長

高齢者人口は平成29年の19,750人がピークで、以降年々下がっている。ただし高齢者以外の人口も下がっているため、高齢化率は年々高くなってきている。おそらく団塊ジュニア世代が後期高齢になる令和22年には高齢化率が最も上がるのでは。

○岡本委員

浜田市の要支援・要介護認定の推移について。コロナ禍でいろいろな活動が停滞しているが、どういう状況になっているか。この推移は毎年チェックしているものか。

○健康医療対策課長

毎年度末に認定率を出している。令和2年に若干上がったのはコロナによるものと推察もできるが、介護予防教室の参加や総合事業の利用率などを見ても令和2年に下がった様子はなく、介護予防は年々定着している。結果的に今年度は22.9%まで介護認定率を下げる事ができた。

○岡本委員

民生委員から、介護を求める方を支援する人の環境は非常に厳しいとの話を聞いている。どのように把握しているか。

○健康医療対策課長

民生委員の地域における活動が難しいということか。

○岡本委員

今のままでは民生委員が活動できない、近所付き合いが厳しくなって手助けする人たちが協力を得られず困っていると相談を受けている。そのサポートはしているか。

○健康医療対策課長

確かにコロナの関係で地域とのつながりが難しかったことはあろうかと思うが、5類に移行したため積極的に地域活動できると、こちらからも話していった地域活動が

途絶えることがないように努めていこうと思っている。

○川神委員

独居世帯率が令和5年に下がっている。今後の推移はどのようになるか。

○健康医療対策課長

高齢者人口が下がってきているので、おそらく今後はどの数も下がっていくだろう。独居世帯についても同様と思われる。

○村木副委員長

総合振興計画の要介護認定率増加の抑制について。令和2年度が18.4%となっているが、今日示されたものには令和2年度が23.53%となっている。これは要支援者等も含まれているために差が出たと把握してよいか。

○健康医療対策課長

そのとおりである。

○村武委員

先日、市議会主催の地域井戸端会で和田まちづくりセンターに行ってきた。そこで伺ったのが、コロナになる前は電動カーで出掛ける方をよく見たが、最近見かけなくなったのは介護事業所などに入所されているからなのかと。地域ごとに要介護認定率などがどのように推移しているか分からないが、認定度が上がっているのか。

○健康医療対策課長

地区ごとで見ると旭地域だけ認定率が上がってきている。要因を推測するに、旭地域は他地域と比べて要支援者が占める割合が多いことから、比較的早い段階で介護保険申請をしているのではと思われる。

○村武委員

旭地域に、より対策を立てないといけないのでは。意識している点などはあるか。

○健康医療対策課長

現段階では考えてなかったが、今後はそういうことも含めてやっていきたい。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(2) 新型コロナウイルス感染症関連の状況について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(3) 島根大学医学部医学科『地域枠』及び市内看護学校卒業生・入学生の状況等について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

これまで市がいろいろな助成をした入学生及び卒業生の状況と、支援状況について説明をお願いします。

○地域医療担当課長

看護学校の学生には、奨学金を令和2年度あるいは3年度から新たに市独自でやっている。准看護学校には平成22年頃から奨学金制度を設けており、さらには本年度から入学金を後日全額返還している。それがどれほど入学に結びついているかを判断するのは難しいが、例えば今年准看護学校に入られた学生が、入学金が全額返還されると聞いて大変喜ばれた。コロナで学校との交流が難しい状態が続いていたが、今年度からはまた交流を深めつつ、一人でも多くの入学者があるよう取り組んでいきたい。

○岡本委員

そういう支援が今後どういう形で成果につながるのか、今後も把握してほしい。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(4) 放課後児童クラブの入会状況について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

過去、4、5、6年生はクラブに入らない状況があったが、今も同じような状況か。

○子ども・子育て支援課長

4年生以上の児童については、平成26年度から入会できるよう制度改正を行っている。児童クラブ側が4年生以上の入会を制限することはなく、希望があれば皆受け入れている。ただ、年齢が上がると児童クラブではなく自宅に帰って友だちと過ごすなどで退会する傾向にあると考えている。

○柳楽委員

支援員は十分か。

○子ども・子育て支援課長

数年前までは支援員が足りず大変苦勞していたが、直営から委託へ移行したこともあって支援員不足はほぼ起きなくなっている。また、皆経験が長くなり研修を受講済みの方の割合もかなり増えてきたので、支援体制は充足していると考えている。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(5) 令和4年度病児・病後児保育室の利用実績について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○子ども・子育て支援課長

令和4年度に新施設を開設し、1年間通じて運営を行った初年度でもあったため、このたび利用状況などを報告するものである。

利用者の主な声の中にある「昼食対応」についてだが、全食弁当持参という運営方法自体に変更はないが、どうしても準備が難しい方が一定数いるので、1、2歳児用のものとはなるが施設側で軽食を提供できる対応を取っていると聞いている。

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

○川神委員

予約システムなどについて。紙ベースではなく電子媒体などの導入は視野に入っているか。

○子ども・子育て支援課長

確かにオンライン受付は国もかなり推奨している。施設と話すに、子どもの体調によって予約日の前日にキャンセルが入るなど、空き状況がすぐ変わる性質がある。また、やはり事前に病状の聞き取りを行いたい現状もあって、システム化は検討課題としている。

○川神委員

時期としてはどのあたりを目指しているか、もし考えがあれば伺う。

○子ども・子育て支援課長

まだ具体的な年度までは考えてないが、判断はできる限り早目にやっていきたい。

○村武委員

川神委員が言われたようなことを私も利用者から聞いている。空き状況の確認や予約はネットでできるとうれしいと。ぜひお願いしたい。

○柳楽委員

医師が常駐しない施設だが、医師の診断が必要な状況などは特になかったか。

○子ども・子育て支援課長

私が知る限り、そういう事例があったとは聞いてない。もしあるようなら改めて報告させてほしい。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(6) 令和5年度幼児教育施設の変更点と未就学児童の状況について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○子ども・子育て支援課長

今回の変更に伴い令和5年度は、認可保育所が19園、認定こども園が7園となった。浜田地域の公立幼稚園の欄が、浜田幼稚園のことになる。27名でスタートをしている。新規入園児の状況は、3歳児が3名、4歳児が4名、5歳児が1名。ページ一番下、施設未利用者の5歳児が3名となっているが、これは海外在住だったり4月1日以降に転出されたりと、状況把握はできている。

(「なし」という声あり)

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(7) 令和4年度子育て世代包括支援センター「すくすく」等の利用状況について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

地域別利用者数の表について。令和4年度は市外708人とあるが、市外とはどういう方か。

○子育て世代包括支援担当課長

市外が増えているのが今年度の特徴となっている。普段は市外在住で、浜田に里帰りされた際に利用される方が多い。また、世界こども美術館の帰りに立ち寄られた方の登録増も今回の大きな原因と分析している。

○岡本委員

引率者・ボランティアとは。

○子育て世代包括支援担当課長

引率者は、子どもだけで来ることはないので保護者など引率してこられた方。ボランティアは、子育て応援隊やボランティア事業に参加される親御さんのお子さんを見ていただく方、おもちゃの病院などを運営していただいている方の合計872人である。

○岡本委員

土日の利用状況は。

○子育て世代包括支援担当課長

以前は日曜日休みだったが、昨年4月以降は日曜日も開所している。普段の利用は0歳児が圧倒的に多いが、土日は幼稚園・保育園・こども園に通う親子の利用が増える。

平均利用者数も平日と比べて土日がかなり多い。

○岡本委員

日曜日の職員配置に問題はないか。

○子育て世代包括支援担当課長

土日は基本的に2名の職員が勤務している。年度の初めは、全員に新規登録をしていただく必要があるため用紙記入などで混雑することはあるが、基本的には親子で利用してもらう場所なので職員が付き切りになることもなく、この人数で問題ないと思っている。

○村武委員

基本的には未就学児対象だと思うが、小学生の利用も見られる。小学生の利用目的は何か。

○子育て世代包括支援担当課長

未就学児の兄や姉である。こども美術館は土日に小学生の利用が多く、その弟妹が一緒に来られている。

○村武委員

小学生以上の子育ての悩みなどもあるのか。

○子育て世代包括支援担当課長

電話相談でそういった件もあった。内容を聞くと不登校や学校内の悩みなどのため、教育委員会と連携して対応した。

○村武委員

コロナが5類になったということで、飲食もあるかと思う。まちづくりセンター等で行われている子育て広場では飲食も対応していると思うが、すすくすくでは難しいと聞いた。考えを聞きたい。

○子育て世代包括支援担当課長

これまでは団体などから問い合わせがあっても、コロナを理由にご遠慮いただいていた。しかし5類になる前の少し感染が落ち着いた頃から離乳食教室での試食なども始めており、マスク着用も個人の判断に委ねている。今後も飲食の利用については個別にご相談いただき、目的などを伺いながら判断したい。まずは、ご相談をいただけたら。

○村武委員

お菓子やお茶をいただきながら話が弾むこともあると思う。検討をお願いします。

○柳楽委員

浜田地域以外からの利用はやはり少ない。子育て支援の拠点が無い地域もある。こういった報告の際に、各地域で子育て支援の拠点になってもらっているところの利用状況も報告いただくと、どれくらいの方が利用されているか状況も分かると思う。

また、子育て拠点が無い地域に対する支援の考え方を聞きたい。

○子育て世代包括支援担当課長

子育て支援拠点到る数字はあるが入れてなかった。次回から入れたい。現状から

言うと、運営スタッフがどこの地域も減っているのが課題だとは思っている。

○柳楽委員

地域で保護者が小グループで集まるような活動をされているところもある。そういうグループへの支援は何かやっているか。

○子育て世代包括支援担当課長

子育て世代包括支援センターには子育てコーディネーターがおり、サロンや広場に一緒に参加して状況報告も受けている。いろいろな相談事に乗ったり、情報提供したりしている。

○柳楽委員

資料にある相談件数は、すくすく利用者からの相談だけでなく、相談のみで来られる方も含まれるのか。

○子育て世代包括支援担当課長

電話相談も、遊びに来た流れでの相談も、相談目的で来られた方も、全て合計した数である。

○柳楽委員

相談だけで来られる方の割合は。

○子育て世代包括支援担当課長

正式に計算はしてないが、割合は少ない。子ども家庭総合支援拠点の職員と連携して関係機関とつなぐような案件も数件あった。

○柳楽委員

相談機能がフルに発揮されるのが理想だと思っているので、気軽に相談できることを引き続き周知してつなげていってほしい。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(8) 令和5年度浜田市国民健康保険料率について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○岡本委員

しっかりした市民周知について何か考えがあるか。

○保険年金課長

まず保険料率が決定したら告示する。同時にホームページでも公開する。6月半ばには市民の手元に保険料納付書が届くはずである。昨年と同程度の所得の方なら、昨年と比較して保険料が下がっていることをご理解いただく形を取りたい。

○柳楽委員

市民には介護保険料や健康保険料が上がるイメージがすごくあるのだが、なぜ上がるのかが理解されてない。給付が増えれば保険料は上がる。介護保険や医療保険を使わないようにするためには健康を心掛けるなどの対策や努力が大事であり、そこを理解していただくような対策も必要なのでは。考え方を聞きたい。

○保険年金課長

予防医療は大変大切だと思っている。国民健康保険で特定健康診査を無料で受けられる。受診券を発送予定である。健診の結果、症状が悪化している方は特定健康保険指導が入る。年度後半に健康医療対策課と一緒にケーブルテレビなどでアナウンスできたらと考えている。

○健康医療対策課長

やはり介護予防が保険料率を上げないための最も有効な手段になってくる。保険事業と介護予防が一体化になったフレイル予防なども引き続きしっかり進めていき、料率が上がらないことの周知もしていきたい。

○柳楽委員

この話は、保険料を使ったらいけないのか、病気になるのがいけないのかという話につながるおそれもあるので丁寧にやっていかないといけない。私と話した方は「（給付が下がれば保険料率も下がると）分かっていたら皆もっと気を付ける」と言われた。状況を見ながら、市民感情を揺さぶらない形で、分かっていたら取組をしてもらいたい。

○健康福祉部長

国民健康保険料率についても介護保険料率についても、医療費が高くなると上がってくる。県からの納付金が増えてくる制度になっている。浜田市は早期発見・早期治療を目指して国民健康保険を運用している。介護については、フレイル予防等の支援を頑張ってもらおう制度、健康づくりに取り組んでいきたい。両方連携して取り組んでいきたい。後期高齢者の保険料も併せて、やっていきたい。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(9) 令和4年度ごみの排出量等について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(10) マイナンバーカード交付状況等について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

浜田市は県内8市で交付率1位。大変頑張っておられるのだろう。マイナンバーカード交付によって、書かない窓口などにつなげようという考えがあるのか。

○総合窓口課長

ご指摘の件は浜田市でも検討はしている。マイナンバーカードがあれば入力が省けるといったことも含めて検討中である。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(11) 令和5年度軽自動車税（種別割）の当初賦課状況等について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(12) 令和5年度固定資産税の当初賦課状況等について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○資産税課長

資料(5)の相談窓口の人数は11日現在の数字である。最終の数字は、電話による相談件数が334件、資産税課窓口への相談が54件、合わせて388件となり27件増加した。

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

コロナは収まりつつあるものの、物価高騰で大変な状況もあるかと思う。こういった相談が多いか。

○資産税課長

特に多いのが土地の見直し依頼である。耕作してない田畑を現地確認するとか、家を解いた後の土地に成木を植えたので見てほしいとか。家屋の損耗が激しいので見てもらえないとか。一部屋根が崩落しているので見てほしいとか。担当者が現地で対応している。

○柳楽委員

支払いに関して何かしら措置をしてほしいといった相談はないのか。

○資産税課長

収入が減って苦しいといった相談は税務課の収納係で対応しているのだが、分割などで対応していると私は思っている。

○柳楽委員

固定資産税の支払いが難しいといった相談は、直接、資産税課に相談ではないということか。

○資産税課長

資産税課に来られる場合もあるが、税務課の収納係へ案内する。

○税務課長

隣の課なので連携している。まず事情を伺い、相談者に寄り添って対応している。

○岡本委員

(2)調定額の主な増減理由の中の償却資産、大規模建設等による増額とは三隅火力発電所のことか。

○資産税課長

おっしゃるとおりである。

○岡本委員

そのほかにあるか。

○資産税課長

償却資産の内訳だが、一般の償却資産が4億円程度である。浜田にある風力、太陽光が1.6億円程度で、合計5.6億円なので、それ以外のところが総務大臣配分。

○岡本委員

来年、再来年辺りの想定金額を聞きたい。

○資産税課長

1号機のとくもそうだが、1.5億円以上の金額が毎年落ちていく感じになるろうかと思う。

○川神委員

下落についての概要が分かるか。

○資産税課長

一番大きいのが浜田駅付近で0.53%程度。次に西浜田近辺で0.26%、地価で言うと平均38,400円程度。あとは下府辺りが1.83%程度下落、久代が1.83%下落、周布が0.82%、三保三隅が0.78%。以上が主なものである。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩とする。

[11時 00分 休憩]

[11時 10分 再開]

(13) 下水道事業の公営企業会計への更なる移行について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○水道管理課長

国からの通知に基づき、現在、特別会計で運営している農業集落排水事業、漁業集落排水事業、生活排水処理事業について、公営企業会計へ移行の取組を進めている状況。進捗は資料にあるとおりで、今年12月に条例改正を議会へ上程する予定にしている。

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

○柳楽委員

委託契約について、集落排水と生活排水は同じ受注者で、下水道事業だけ事業者が違うのだが、どういった理由か。

○水道管理課長

集落排水と生活排水処理事業は、固定資産調査及び評価業務を委託しており、企業会計移行に当たり、固定資産を登録する必要があるので、補助金などを使って施行してきた部分についての計算や洗い出し作業をお願いした。下水道事業の地方公営企業法全部適用に伴う例規整備は、12月に上程する予定の例規を整備する作業をお願いしており、あらかた終わった。現在は委託し切れなかった部分の手直し作業を進めている。このように委託内容が全く違うために業者が違っている。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(14) 浜田処理区下水道整備事業について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

○下水道課長

(以下、資料を基に説明)

○小川委員長

委員から質疑はあるか。

○川神委員

最終的には技術提案と交渉方式のE C I方式を中心に進めていきたいとの話があった。当初我々は、「DB方式によって民間活力も投入しつつ進めていきたい、建設業協会からも一定の評価もあった」と伺っている。E C I方式へ移行する中で、主な論点は何か。

○下水道課長

意見交換会の中でDB方式は難しいとの意見が出た。まず処理場建設工事が多岐にわたるので、工事全体でDBをやるグループをつくるのが非常に難しいと。また、DB方式はどうしても設計と建設のグループが必要になる。設計企業の参加が1者しかなかった。設計側と企業側のマッチングが難しいことも考えて、DBは難しいと判断した。

○川神委員

E C I 方式は地元業者も含め、おおむね理解が得られたということか。

○下水道課長

こちらの方式についても地元団体と話をさせてもらった。事業者側も設計企業・建設企業とのグループ化が不要だと、DBに比べたら負担は軽減されるといった意見も聞いた。民間企業のノウハウと技術力を活用しながらやっていきたい。

○岡本委員

処理用建設工事の欄に経過及び進捗状況の記載がある。これを見ると今後10年間で下水道整備をおおむね完了させる方針が示されたようである。下水道工事は打ち止めするという国の方針がある中で、ほかの未整備箇所についてはどうするのか。

○下水道課長

令和8年度末が一つの区切りだと思っているが、資材の調達困難や物価高騰なども考えて、国の動向を注視しながら結論を付けないといけないと思っている。現時点で9年度以降をどうするかは申し上げにくいですが、8年度に向けて情報収集をしっかりとやって、どうするかをお示ししたい。

○岡本委員

とりあえず目標のものを完成させる、そのあとは整備については何らかの助成をして続けてほしいという要望活動になるという認識でよいか。

○下水道課長

そのとおりである。どんどん広げたい思いがあるが国の交付金に頼らざるを得ないところもあるので、状況を見ながら判断したい。

○村武委員

地元説明会の参加状況について聞きたい。

○下水道課長

今日現在、二会場で3回開催した。合計38名の市民に参加いただいた。

○村武委員

各回の人数は。

○下水道課長

5月15日浜田まちづくりセンター昼部が17名、夜部が3名。昨日は石見まちづくりセンターで昼部を行ったが18名に参加いただいた。

○村武委員

こういった質問が出たか。

○下水道課長

どの会場でも多かったのはやはり、今後接続に当たっての費用面についてである。国府の事例を基に説明した。

今回は設計と工事を同時に出しているのので、早いペースで工事が進んでいる。実際に自分の家の前がいつ頃になるかといった話もあった。工事が始まる前には対象地域の方々に改めて説明会と工事のご案内をさせていただきたいと説明した。

また、厳しい意見として下水道整備が遅いと。おおむねこのような内容だった。

○小川委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(15) 浜田処理区下水道マンホール蓋デザイン募集について

○小川委員長

執行部から補足説明はあるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

(16) その他

(配布物)

- ・ 令和5年度子育て支援ガイド

○小川委員長

配布物について執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

5月26日に開催される全員協議会へ提出し説明すべきものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。

○地域福祉課長

(14)の浜田処理区下水道整備事業について1件を考えている。

○小川委員長

執行部の意向のとおりでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのように決定する。

2 その他

○小川委員長

執行部から何かあるか。

(「なし」という声あり)

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

ここで執行部は退席されて構わない。

(執行部退席)

3 【取組課題】就労支援を含めた障がい者支援について（委員間で協議）

○小川委員長

現在の状況について少し情報共有したい。今、三つの班で企業訪問を計画されている。その日程調整について何か報告できるか。

○久保田書記

現在、5月9日に石見食品へ行ってもらっている。今日の午後、プチマタンと島根パークに行かれる予定になっている。24日に浜田ビルメンテナンス、30日にベリーネ、31日にコーヒン商会と就労継続支援A型B型事業のはまかぜへ行かれる予定となっている。あと2施設については、日程調整して訪問していただきたい。

○小川委員長

できれば今月中をめどに終えて、それから秋に向けてまとめ作業に移っていきたい。地域井戸端会の日程も重なって大変だと思うが、企業の現状をつかんでもらえればと思う。よろしく願います。

取組課題について、ほかにご意見はあるか。

○村武委員

ヒアリングシートは企業側には送られているか。

○久保田書記

企業側にメールでも送っている。

○小川委員長

私も石見食品に伺ったが、シートに記入いただいているといったことではなく、シートに基づいて現状を伺い、それを踏まえて意見交換した形だった。事前準備まで企業に願うのは負担な状況もあると思う。意見交換も1時間程度で切り上げるなど、負担にならない範囲で現状を伺った。

○岡本委員

どういう形で何名受け入れているかは、市の担当課は把握してないのだろうか。現地で聞かないといけないか。

○久保田書記

一旦調べてまた報告したい。

○村木副委員長

各就業施設にどういう方がどれだけいるか福祉に聞いてみたが、把握してないとの回答だった。したがって事前に聞くこともなかなか困難であり、結果的に現地に行った際に確認するしかないと聞いた。

○小川委員長

表彰を受けた会社に、どういう方が採用されているか聞いてみたところ、それもプ

ライバシーに関わる部分があるとのことではっきりとした回答を得られなかった。こちらから事前に担当課に聞いても、把握しづらかったところがあるとのことである。会社によってはあまり表に出したくない気持ちを持っておられるところもあるようなので、配慮しながら進めていただきたい。

○岡本委員

企業がどのような障がいを持つ方をどの程度採用しているか把握しないと、次の提案につながらないような気がしている。市が支援しようにも状況が把握できなければ、支援につながらないのでは。相手に失礼のないように聞いていきたいし、皆にもお願いしたい。

○小川委員長

現地に行った委員の判断に委ねることになると思うが、先ほど言ったようにデリケートな部分を含んでいるので配慮しながら、できる範囲で充実したヒアリングをしてほしい。

○柳楽委員

3月定例会議のときにはこのテーマに基づいて委員会代表質問をしてもらった。9月でまとめることになった場合、それまでのところだと6月の定例会議が最後になるのでは。委員会代表質問でテーマに絡めた質問をする考えは今のところないか。

○小川委員長

そこまで考えてないが、委員会代表質問は毎回やるべきだとの意見があれば、その方向で検討していきたいが。

○柳楽委員

別に委員会代表質問でなくても、執行部との意見交換でもよいのだが、I P Sの取組について市がどのように考えているか確認はしておきたいと思ったので。

○小川委員長

執行部とも中身については共有したい気持ちがある。前は委員だけで話を聞いたのだが、執行部と一緒にI P Sについて話を聞ける場を持ったほうがよいのか。それともI P Sの取組について執行部が把握しているなら、それに対してどのような思いを持っているか聞く場にしたいほうがよいのか。少し検討したほうがよいかもしれない。

○柳楽委員

先般話を聞いた限りでは、執行部にはその話をされているとのことだったので、執行部と委員会との意見交換の形がよいかと思う。

○小川委員長

取組課題の一環として副委員長と相談してみたい。ぜひ前向きに検討する。

○岡本委員

私はぜひ委員会代表質問を6月定例会議にもやってほしい。正副委員長に考えていただきたい。できるだけ協力する。

○小川委員長

今回の取組課題に関連する形でということか。それ以外にあるか。もし委員会代表

質問で取り上げるべきものがあれば出してもらいたい。委員会代表質問は委員会の総意に基づいてやるのが条件になっているので、全委員の認識を一致させて質問できるものがあれば検討していきたい。ご協力をお願いします。

○柳楽委員

できればこの取組課題について委員会代表質問をやっていただけたらと思う。3月定例会議のときは視察先で得た情報を踏まえての質問だったが、これまでに支援事業所などで話を伺い、浜田市としては、どのようになっているか確認をしておいたほうがよいところもあると思う。それを確認かたがた質問すればまとめにつながるように思う。

○小川委員長

柳楽委員が先ほど言われた I P S も、委員会代表質問でやってもよいかもしれない。I P S という優れた取組について執行部の受け止め方を聞くだけでも価値はあるように思える。I P S という取組を市民に知ってもらう機会にもなると思う。

ほかにも案があれば伺っておきたい。岡本委員からは具体案があるか。あればまたお願いします。

○柳楽委員

18歳以降の支援がなかなかないとも伺ったので、そこについての市の考え方も確認してみたい。

○小川委員長

その2点だけでも検討してみたい。今日の流れでは、6月定例会議に向けて当委員会では委員会代表質問を準備していくということで。ほかにも案があればまたお願いします。

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

以上で福祉環境委員会を終了する。

[11時 47 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員会委員長 小川 稔 宏